

## 第1号議案

### 令和2年度全技連マイスター会事業計画(案)

#### 1. 基本方針

令和2年度・2020年度が始まりました。順当にいけば、2020年度は、東京オリンピック・パラリンピック開催で、日本全国が沸き立っているはずでした。誰がオリ・パラとアビリンピックが2021年同時開催となることを予想したでしょうか。

令和元年度は、会長挨拶にもあるとおり、自然災害に苦しめられた1年でしたが、加えて、コロナウィルス災禍の全世界への蔓延に伴う人的・物的流通の遮断、生産活動の停滞に伴う深刻な経済危機に見舞われております。前代未聞のオリンピック1年延期や緊急事態宣言発布は、まさにこの深刻さを象徴する事態と言えます。世の中全体を、言いようのない危機感・憂鬱感が漂っているように感じられます。

しかし、徒に周章狼狽しても事態の好転は望めません。ワクチン開発・治療薬の発見や医療体制の早急な整備、経済収縮・生活苦境に対抗する迅速・強力な財政出動、破綻危機に見舞われている製造活動の再開等、その任に当たる人々が、必要な対応に全力を挙げ取り組むべき時です。

私達ものづくりに携わる仲間も、資材の入手困難・従業員雇用止め・納期未達・運転資金の枯渇等々、経営基盤を揺るがす極めて強い逆風の中に立たされています。

今後、インフレと不況という2重の困難も懸念される中、ものづくりの火を高々と掲げ続けるのは容易なことではありません。厳しい逆風の中、掲げる火を消さないためには、ものづくりに携わるさまざまな仲間が、互いに手を携え、自分たちの使命を果たすべく、困難に立ち向かう必要があります。

このため、全技連マイスター会は、以下の2点を基本方針といたします。

#### (1) ものづくりを目指す組織との連携の強化

全技連マイスター会の組織目標の根本は、ものづくり社会の定着ともものづくりに携わる技能士の社会的地位の向上にある。この目標を実現するため、これまでも、例えば東京都が主体となって実施している「ものづくり・匠に技の祭典」に全技連マイスター会(本部)や各支部が参加してきたが、今後も、各自治体等の関係団体との連携協力を深めていく。

とりわけ、関係団体のうち、全国・各地方ともに職業能力開発協会・技能士会連合会とは、技能力・職業能力向上やものづくり後継者育成を中心として、相互に支援・事業協力を行い、ものづくり社会の定着に向け、連携を深めてきた。ものづくり社会の定着と技能士の社会的地位の向上のためには、今後とも職業能力開発協会・技能士会連合会との連携・協力は欠かせない。このため、両団体との連携・協力関係をさらに深める。

## (2) 全技連マイスター会組織の活動力の強化

平成18年(2006年)7月発足以来15年、全技連マイスター会はその社会的使命である、ものづくり社会の定着と技能士等の社会的地位の向上を目指し活動してきた。これからの15年、全技連マイスター会組織がさらに充実し、与えられた使命を十分に果たすため、本部と各ブロック会・支部の連携の強化、本部組織の在り方の検討、ブロック会・支部活動力の一層の充実を図ることが望まれる。

今後、以上の観点を踏まえ、更なる組織活動力の強化に向けた措置を行う。

## 2. 個別方針

上記基本方針の具体化のため、次の諸点を具体方針として定めます。

### (1) 「ものづくりを目指す組織との連携の強化」へ向けて

#### ① 中央職業能力開発協会及び全国技能士会連合会への加盟

全技連マイスター会は、これまでも全国及び各都道府県の職業能力開発協会・技能士会連合会の実施する事業に、実質的に参加・協力をしてきた。

この関係をさらに深めることは、全技連マイスター会の社会的認知力・信頼度を高るうえで、必要なことである。また、両団体に全技連マイスター会の考え方・活動方針等を理解してもらうためにも有効である。

このため、中央職業能力開発協会・全国技能士会連合会との連携・協力をさらに深化させ、全技連マイスター会の社会的信頼度を高めるため、今年度中の両団体への加盟を目指す。

#### ② 両団体への事業協力をより深める方策の検討

全技連マイスター会及び両団体が実質的な連携・協力体制を深めるため、両団体への加盟とともに、これまでも実質的に行ってきた技能士大会等、全技連マイスター認定講習等の各種事業につき、協賛・協働両団体との協賛・協働の可否につき、検討を進める。

#### ③ アビリンピックの成功へ向けての協力・賛助

オリンピック・パラリンピック成功は、日本・世界の望むところであることは言うまでもない。

これに加え、私たちものづくりに携わる者は、更に2021年11月に予定されているアビリンピックの成功を希求している。今後の2ヶ年を展望すると、財政・経済的にも極めて困難が予想される。この中にあっても、国・地方公共団体・職業能力開発協会・技能士会連合会は、最大限の努力をされるものと思われるが、全技連マイスター会も、ものづくりの一員として、アビリンピックの成功に向け、協力・賛助を行っていく。

#### ④ 「ものづくり・匠の技の祭典」への協力

日本のものづくりの素晴らしさを、オリンピック・アビリンピックを契機に広く全世界に広めるため、東京都を中心に行っている「ものづくり・匠の技の祭典」の今後の動向は、昨今の状況を踏まえれば、予断が許さない。

しかし、今まで、本部・支部が出展することにより、全技連マイスター会の活動内容を広く各方面に知ってもらうことが出来た。

このため、出展・協力要請があれば、引き続き、この活動に積極的に参加し、その成果を広く伝える。

## (2)「全技連マイスター会組織の活動力の強化」へ向けて

### ① 事業費助成制度の拡充

事業費助成制度については、平成27年7月に「全技連マイスター会事業費助成基準」を制定し、各支部等への事業費助成の透明化・公平化を図った。以来、大半のブロック会・都道府県支部がこの制度を活用しており、これらの組織の活動力を支える重要な制度となっている。

昨年度のブロック会総会・支部設立総会に要する経費の2倍増に引き続き、本年度は各支部等助成学を増額することにより、各支部等の活動力の更なる強化を進める。

### ② 本部役員と各ブロック会・各支部との交流促進費の整備

全技連マイスター会本部役員と各ブロック会・各支部や関係団体との交流は、マイスター会活動の強化・活性化のうえで、必要・不可欠のものである。

これまで、主として全技連マイスター会会長が、時間の許す限り、各地域の意見を汲むため各支部・関係団体と交流し、その情報をもとに関係方面への交渉等に臨んできた。しかし、全技連マイスター会の資金力の乏しさから、その活動は、会長のいわゆる「手弁当」に頼ってきた。このような有り様は極めて無理があり、長く続くものではない。

このため、(とても、会長の活動実績には及ばないが少額ではあるが、)本部役員と各支部等との交流促進のための予算枠の新設・拡充の芽出しを行い、本部と各ブロック会・各支部、関係団体との交流促進を活発化する。

### ③ 全技連マイスター会ホームページの拡充

全技連マイスター会ホームページの閲覧者は、毎年増加している。閲覧者の要望として、地域活動の最新ニュースの掲載、ブロック会・支部会長等の所信、各支部の活動方針、会員の叙勲等の情報提供など、地域活動等に関するものが多く寄せられる。

ホームページの拡充は、全技連マイスター会の組織活動力充実のための重要な手段ともなっている。

3月の「掲示板」版掲載記事では、コロナウィルス感染症により、企業存続に苦しむ会員が多いこともあり、経済産業省ホームページ「新型コロナウイルス感染症で影響を受ける事業者支援」を掲載し、同省ホームページにリンクを張ったが、今後とも必要・有益と思われる記事については、ものづくりの枠にとらわれず、積極的に記事掲載を行う。

また、閲覧者からの要望の多いブロック会会長・支部会長の声等について、関係者からの積極的な記事の提供を求め、要望に合った記事の掲載に努めるなど、ホームページの拡充に努める。

### ④ 更なる団体組織強化のための方策の検討

今後、全技連マイスター会がさらに活動力を高め、社会的信用力の向上を図るためには、

現在の組織の有り様（＝人格なき社団）のままが良いのか？より相応しい組織形態があるのか？あるとすれば、どのような組織形態が望ましいのか？

発足15年目を迎えた今日、更なる全技連マイスター会の組織強化に向けて、その方策を検討する。